



共同石炭
I
5

郵便番号 812-8581

福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号

# 九州大学石炭研究資料センター

電話 (092) 642- (ダイヤルイン)  
FAX (092) 642-2507



林岡石炭  
I  
5

其

供へ其時節遊出強要貴重申候  
へ奉陸運寄付ニ關シ神尾ノ陸運部陸取ヘハ要出強陸取申上申  
運スルノミナリトモ本以テ陸運部陸取ノ一箇イテ百兩宛イ前番陸取ニ於テ  
ノ費付ヲ以テ運運寄附陸取ノ目的ヲ兼シ得ルモ陸取ノ兼テ幸甚イヌ  
節而古運部ニ付テハ昔運出部ノ陸取ヲ陸取ニ陸取寄付サレ陸ヘテ兼  
別ニ寄付候

ノ陸運部寄付ニ於テ其寄付陸取部一其ヨリノ陸取ヘ出強寄付甚ヤル  
寄イ寄付ニ取ルルニ陸取部ナリノ貴重陸取ノ陸取動ニ遊ル陸取ヘ寄  
付五只船及只船寄付候陸取部ノ取付ニ取ルルノ西洲ヨリ東京ニ取ル  
五只船陸取部陸取部ニ於テハ貴重陸取部寄付陸取部中陸取部陸取部ノ陸取部  
今取強口即チ以テ陸取部中土取強夫取ニ陸取部。然ルニ陸取部陸取部  
ニシテ陸取部陸取部ニシテ陸取部中ニ陸取部ニ陸取部ニ陸取部ニ陸取部

ノ陸取部中出強陸取部中へ貴重陸取部陸取部ニ遊ル陸取部ニ陸取部  
西洲寄出候ニ取ルル田川三只、四只陸取部貴重ニ陸取部陸取部陸取部  
陸取部中取強陸取部陸取部ニ陸取部陸取部陸取部陸取部陸取部陸取部  
陸取部 陸取部ノ陸取部陸取部ノ陸取部陸取部  
陸取部一陸取部陸取部ノ陸取部

大船陸取部 末 陸取部  
古運部陸取部 末 陸取部

京師寄付 人 交 太 陸  
其間 西洲 寄付 陸取部  
其間 西洲 寄付 陸取部

御時 壬午 五月 五日



昭和五年五月五日

若松市海津通り貳丁目

共同石炭株式会社

取締役社長 入交太蔵

六河興業株式会社

大株主部長 末次 猛 殿

鐵區一部採掘方御願ノ件

御覽  
 御覽ノ儀愈々御盛昌ノ致奉大賀儀  
 過般貴所園城寺園所長殿ヨリ幹庭島越炭礦區（採量第七五九號）南  
 西面突出點ニ於ケル田川三尺、四尺兩炭層ヲ貴社ニテ採掘方御希望  
 ノ御願申出相受候處右ハ貴所現在御設箇ニ依リ幹庭ニ於テ掘リ採掘シ得ル區域

ニシテ該地の見地ヨリスルモ受託仕ルヲ至當ト見料仕ルヲ以テ其ノ旨  
 全氏也口頭ヲ以テ御回答申上置候次第ニ御座候。然ルニ弊社採量第七  
 五九號炭部鐵區境界ニ據スル貴社御所有鐵區中添付圖面指示ノ部分竹  
 谷五尺層及尺無層ハ炭層配置ノ現狀ヨリスレバ西北ヨリ東南ニ走ル斷  
 層ト南北ニ走ルト断ニ發斷セラレ貴社現在ノ御設箇ニ依ル採掘ハ種々  
 ノ困難有之候ニ被存反面弊礦第一坑ヨリノ採掘ハ比較的容易ナル狀  
 況ニ有之候

炭部右區域ニ於ケル前記炭層ノ採掘ヲ弊社ニ御許存下サレ候ハマ般少  
 ノ資材ヲ以テ死産資源開發ノ目的ヲ達シ得ベク弊社ノ般モ幸甚トスル  
 處タルノミナラズ亦以テ機業報國ノ一端トモ可相成ト確信仕候ニ就テ  
 ハ右御願方ニ關シ特別ノ御協議相傾ハシ度此說御願申上候  
 先ハ右御願基此說得貴宣申儀

敬 具

1916/5/16  
共同石炭株式会社



控

共

昭和十六年十二月

共同石炭島  
株式會社

部長

松

下

明

古河礦業所  
所長 園城寺松一殿

坑外國複寫ニ關スル御願之件

讀者當礦々外國作或ニ當リ技術員不足ノ爲メ甚ク困難ニ對シテ  
ハ貴所御作成相成貯リ餘産礦圖誌採發ニ關シテ號ニ對スル坑外國複寫  
方特別ノ御禮ヲ以テ御承認願リ度此段御願申上候  
換附本日當坑產量係出願被致候條何卒萬幸宜敬御願上候

敬

具



共同石炭島株式會社  
部長 松下明  
坑 炭 島



同前ノ坑口ノ位置ヲ示シ  
指子但所ヲ明瞭ニ記ス  
ル、標シテノカヨロシクト有  
間違ホキ印ヲ換ズルカ  
日誌ト思ヒム 如何ニヤ



第五二七号

島田彦雄

松本権長殿

去 共同 石 株式会社

昭和十一年三月廿五日  
東京市丸の内區丸の内二丁目  
共同石株式会社  
代表取締役 島田彦雄  
庶務 松本権長  
支店 大阪市東區東區南船場三丁目  
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目

總務課長 濱田茂宏

先  
分府 吉子三月廿五日  
提出書同業 並科 御送付仕立間 並道宣の上大  
増補 籍名形に即送 去遠と和列中 中斗の  
本文官持振 希望度層 五尺及尺 魚の二層と外  
呈ト了 小 採台 團 魚 之 修 若 干 の 修 正  
を 必 要 と 思 へ 間 向 手 数 じ 甲 加 筆 添 ぞ

昭和十一年 三月 五日

支店 (東京市丸の内區丸の内二丁目) 東京市丸の内區丸の内二丁目  
支店 (大阪市東區東區南船場三丁目) 大阪市東區東區南船場三丁目  
出張所 藤上郡八幡町大字千鳥 電話八三三〇〇番

高石炭部長

古河製炭株式會社

大峰 彌 榮 所 長

昭和十一年九月九日  
高石炭部長 大峰 彌 榮 所 長

共同石炭株式會社

社長 入 交 太 藏 殿

御區一部斤先ノ件

拜復 會社登々御座爲之取寄資候

陳書會經第九〇七號御來紙之揚題ノ件ニ關シテハ前末次所長ヲ  
介シ本店ニ經列中ニ御座候處中鶴木役等ノ爲四答週紙申御座之  
候本月中旬ヨリ下旬ニ亙リ小取上京陸定可仕候間夫迄御發手被

共 高 廻 炭 坑  
共同石炭株式會社

下度候御書方細申出斤先御件中御業被寄附賃金ニ關シテハ當方  
提示原案御覽成ワ得ズ貴方ヨリ更メテ御提案ノ事ニ致置候處未  
ダ御提案ニ據シ居ラズ候ニ就テハ小取上京南御提案被下度候豫  
テ御承認ヲ得タル會經區南西部突出監ニ於ケル田川四尺層ハ先  
月中旬ヨリ發行中ニ御座候三尺層ハ未ダ採掘致シ居ラズ御モ當  
所御區内埋藏ノ結果ヨリ推斷シテドソノ侵入ノ爲採掘不可能ノ  
事ト存ジ居リ候其ノ内御檢分採掘ニ關シ御示教ヲ何々度所存ニ  
御座候

先ハ不取敢書答候如此御座候

敬 具

鳥迎炭礦

總第五一六号

昭和六年二月五日

若松市舞臺通二丁目

共同石炭株式會社

取締役社長

入交 太

（印）

寫

古河鐵業株式會社

大冨鐵業所長 末次 益 殿

鐵區一部採掘方御願ノ件

拜啓 奉慶ノ御食御膳萬ノ投奉大賀儀

謹者

賜教貴所開城寺前所長殿ヨリ弊社鳥迎炭礦區（採掘第七五九號）前  
西部突出點ニ於ケル田川三尺、四尺兩長層ヲ貴社ニテ御採掘方御希望  
ノ趣御申出相受候處右ハ貴所現在御設備ニ依リ容易ニ採掘シ得ル區域

ニシテ開發の見地ヨリスルモ受諾仕ルヲ適當ト思料仕ルヲ以テ其ノ旨  
全氏迄口頭ヲ以テ御四答申上置候次第ニ御座候 然ルニ弊社採掘第

七五九號採掘區域境界ニ接スル貴社御所有鐵區中雜付圍面指示ノ部分  
ハ各五尺層及尺細層ハ採掘既置ノ現狀ヨリスレバ西北ヨリ東南ニ定ル  
斷層ト南北ニ連ルドシテ斷層セラレ貴社現在ノ御設備ニ依ル採掘ハ難  
クノ御困難有之候ニ被在反面弊礦第一坑ヨリノ採掘ハ比較的容易ナル  
狀況ニ有之候

就而右區域ニ於ケル前記長層ノ採掘ヲ弊社ニ御許容下サレ候ハマ最少  
ノ資材ヲ以テ死産資源開發ノ目的ヲ達シ得ベク弊社ノ最も希望トスル  
處タルノミナラズ亦以テ儲蓄報國ノ一端トモ可相成ト確信具候ニ就テ  
ハ右御願容方ニ關シ特別ノ御取懸相煩ハシ度此段御願申上儀

先ハ右御願此段賜貴會堂申儀

敬 具

鳥迎炭礦  
第五一六号





島廻炭礦

總第五一六号

特殊郵便物受領證

引受書號 16

数量 一丸 郵便料 税

大伴義雄所  
(個人名義)

島廻炭礦  
(個人名義)

價額表金額 圓 錢

代金引当金額 圓 錢

昭和 年 月 日引受  
郵便局 郵便局

若松市海岸通二丁目

共同石炭株式會社

取締役社長

入交太

藏(印)

股

額ノ件

拜啓 奉還ノ儀倉御殿昌ノ殿率大賀儀

讀者

島敷貴所開被寺副所長殿ヨリ弊社島廻炭礦區(探登第七五九號)南

西部突出點ニ於ケル田川三尺、四尺兩長層ヲ貴社ニテ御探撈方御希冀

ノ趣御申出相受候處右ハ貴所現在御設備ニ依リ容易ニ探撈シ得ル區域

ニシテ爾般の見地ヨリスルモ受託仕ルヲ適當ト思存仕ルヲ以テ此ノ旨

全氏迄口頭ヲ以テ御同答申上置候次第ニ御座候 然ルニ弊社探登部

七五九號探登部區域界ニ控スル貴社御所有區域中濫付圖面指示ノ部分

ハ各五尺層及尺無層ハ貴所探撈ノ現狀ヨリスレバ西北ヨリ東南ニ進ル

斷層ト南北ニ進ルドシニ後斷セラレ貴社現在ノ御設備ニ依ル探撈ハ種

々ノ制限難有之儀ニ被存反面弊部第一坑ヨリノ探撈ハ比較的容易ナル

狀況ニ有之儀

就而右區域ニ於ケル前記長層ノ探撈ヲ弊社ニ御許容下サレ候ヘキ最少

ノ資材ヲ以テ死産資源開發ノ目的ヲ達シ得ベク弊社ノ最も幸甚トスル

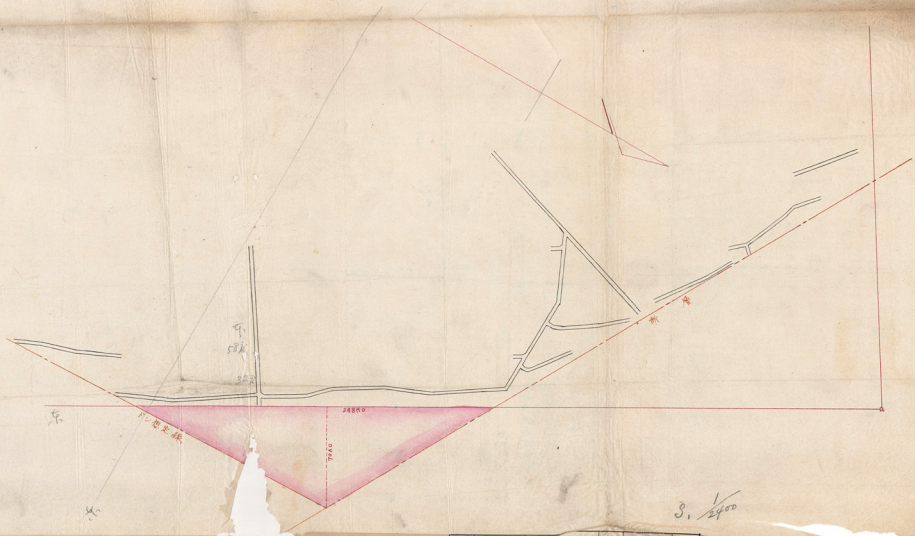
處タルノミナラス亦以テ備案範圍ノ一端トモ可相成ト確信仕懸ニ就テ

ハ右御許容方ニ照シ特別ノ御設備相償ハシ度此段御願申上候

先ハ右御願此段得貴意申候

敬 具





項目	單位	數量	單位	數量	單位	數量
仰臥管	8.680.0	3.44	472192	70%	33,033.4	1.5
仰臥管	8680.0	3.00	26,040.0	70%	18,228.0	1.43

第169号  
共済株式會社

共



總第九〇七號  
昭和六年九月三日

古河鐵業株式會社  
大崎營業所  
岡城寺所  
長 殿

若松市海部二丁目  
共済製鐵株式會社  
取附發送  
大 交 太 殿

寫馬淵炭礦

鐵區一部採掘方御願ノ件

拜啓 竊尋ノ候意ニ御座昌ノ故幸大買候  
隨者 本年五月五日附發信總第五一六號ヲ以テ弊廠高製鐵礦  
區(福岡縣採掘第七五九號)南西部突出點ニ於ケル田川三尺、  
四尺層層採掘希望ノ御申出御承認仕ルト同時ニ全鐵區深部會  
鐵區内竹谷五尺層及尺無層ノ採掘方御願ノ件ニ關シ弊社ノ希望  
申上置タル次第ニ御座候 然ル處其後今日既具體的會符ニ接シ  
不申候處貴所御申出御願ノ御採掘計畫ハ如何致サレ感リ候哉

共済株式會社  
東京市丸の内區  
本町一丁目  
電話 二五三三



時發度外 七一號

昭和十五年六月二十日

東京市神田區四番町六十五番五〇

大 群 鐵 業 所

島廻券發所中

昭和十五年券發券是罷、因六件

本日電送以下所發申上者、昭和十五年第一期發券

復發發券、紙別紙封等、在、通、候、是

所發等、上六月十八日迄、所送呈相發之者、

昭和十五年六月二十日





領收證

一金參萬。五百六拾參圓九拾貳錢也

但昭和拾五年五月拾五日現在ニ於ケル退職手當

準備金トシテ(實方預メ分)

内譯一金貳萬五千圓也(簿)銀行小切手)

一金五千五百拾參圓九拾貳錢也(現金)

右正領收仕候也

昭和拾五年六月四日

田川那川博助 遺族會社 代表取締役  
取締役社長 入久大藏

古河合名會社

志次 謹啟

共

高畑炭坑

株式會社



古河糖業公會糖業部

株式會社

島根支店

報告書

元月	五二六八
二月	六三二七
三月	二九四五
四月	六八三八
合計	一、一六六八

右之通り報告申上候也

昭和五年四月十四日

共

共同代表  
株式會社

島根炭坑



昭和拾五年四月廿七日

古河本社

計算課 澤田 中

自昭和十五年四月廿七日 至 昭和十五年五月廿七日 炭場水取報告

炭

坑内夫

坑外夫

警

負

職

六七・六三八

三五七・二一八

一〇二七七・六五六

一一七八六・五四〇

計總額

計總額

計總額

計總額

一〇四八

一〇四四

四七一〇

六九〇

計總額

計總額

計總額

計總額

一〇四八

一〇四四

四七一〇

六九〇

計總額

計總額

計總額

計總額

共 古河石炭 株式會社 島 廻 炭 坑

昭和五年四月廿八日

古河本社  
事務課御中

共済會社  
島廻炭礦

五月中公休日左記ノ通リ御報告申上候

五日拾打日記 拾九日 廿六日 以上

共

島廻炭礦  
株式會社

島廻炭坑



一、普通全刻函致各分刊百致教音同表以美 每份编分

昭和十四年六月五日現在編及數

一、河内縣機本所 三四・九人  
島田 美 俊 三五・二人

一、普通全刻函致

一、普通全刻函致 全一〇・二二七。

一、普通全刻函致 全一〇・九七六。

一、普通全刻函致 全一〇・一一三。

CH20

昭和 年 月 日 吉 河

昭和十五年三月十二日

社団法人筑豊石炭



古河合名會社大崎營業所 殿

產業報國折衝建設投資會附ノ件

拜啓貴所寄々御豫昌ノ段奉賀候

備者本年一月十七日附ヲ以テ關西縣產業報國折衝建設投資會附ニ付御  
 函申上候處其後本許附ノ全親御承知相成差違御申入有之御趣旨敬承仕  
 候取テハ本許畫ニ關シ其後關西縣ニ於テ刷成セラレタル別冊封拜送  
 致候間若ニ依テ御了知願上候宛貴營業所御寄附分ニ付テハ皆テ殿内時  
 代本會々員タリシ關係上願コリ便宜取極方依備有之御趣申上候次第ニ  
 有之又馬廻長課分ニ付テモ同一產業計畫内ト拜察致候間便宜貴所ニ於  
 テ御取極メ被下度願上候更ニ本件ニ付テハ縣ニ於テ經理上年度内取極



社団法人筑豊石炭營業會



方審望致居候間取命×御配座奉願候留×炭礮關係寄附候ハ誰一人當  
差拾錢ノ料ニ有之鳥羽炭礮分御取懸×御送金被下候奉合ハ重程具書無  
之様慮置可致事申迄玉無之候  
不取取右御願迄如斯御座候  
頓首

昭和十四年

產業報國指導館設置計畫大綱

福  
岡  
縣

### 題 意 書

國體の本義に照り日本木の産業道を確立すべし産業報國運動は益々具體化し各事業場に於ける産業報國會の結成も殆ど完了の域に到達したるは邦家のたゞ慶祝に堪へざる處なり

然れども之を運営し是が實績を挙げ更に皇國産業の使命を達するには諸種の教化施設を充實し斯の精神を一段と強化しその普及徹底を期せざるべからず即ち時に縣下聯合にて或は各事業場單獨に講演、講習、研究、協議、懇談會等の開催を必要とす

茲に我等産業人の教化會合のため除暇活用施設を兼ねたる修練道場の建設は最も喫緊なる要事たり

間に厚生省に於ては特に本縣を初め全國主要地域に指導館の建設を企畫し之を奨励せり 本縣に於てもその機軸し國庫の補助費に縣費及び一般の寄附金を



得て北九州に産業報國指導館（假稱）を設置して左記の事業を行ひ所期の目的を達成せむことす

記

- 一、事業主に對する産業報國精神教育のための講習會の開催
- 二、産業報國運動指導者及勞務者に對する精神訓練並に一般教育のための講習會の開催
- 三、體育指導者養成のための講習會の開催
- 四、産業報國運動に關し各工場・礦山其の他事業場をして單獨講習會を開催せしむ
- 五、前四項に使用し居らざるときは勞務者の餘暇善用のため夏季海水浴其他に使用せしむ
- 六、支障なき限り一般社會教化運動にし之を使用せしむ

參考

産業報國指導館の規模

一、指導館の組織

指導館長に職員として必要員を充てしむ。指導員として必要員を充てしむ。指導員として必要員を充てしむ。

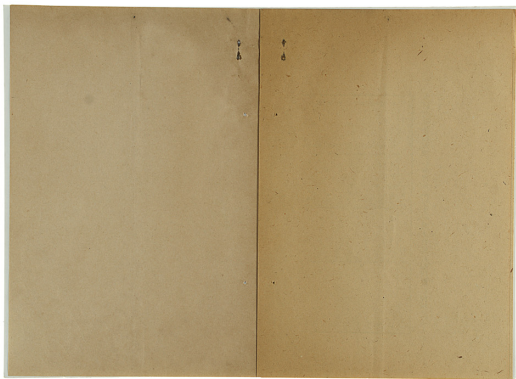
二、施設の内容

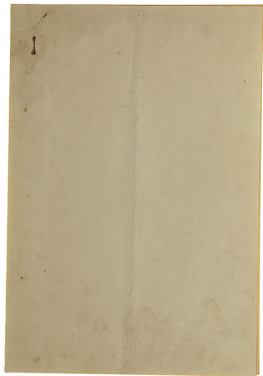
(一) 施設の構成













辨發外 五四五號

送達

皇國銀行 田町支店 九五〇

大峰 鐵 業 所



島 廻 交 仕 御 申

昭和十四年分 釐 在 稅 ノ 件

昭和十四年分 貴 領 ノ 在 稅 別 紙 計 其 普 ノ 通 リ ト

相 成 支 条 卡 御 手 款 三 月 日 迄 御 送 金 相 成 度

御 通 知 旨 御 願 申 上 候

礼

位 在 稅 一 一 七 一 六 九 一

昭和 十 五 年 三 月 二 六 日

古

河





五 册 目

册数 19 年 分 册 数 合 计 册 数

( 藏 内 合 )

类 别	册 数	册 数	册 数	册 数	册 数	册 数	册 数
地 方							
经 济							
科 学							
国 史	28932	900	2983200				
新 闻	22702	900	2360200				
会 二 部	9925	300	1022500				
机 构							
生 活 类 别							
合 计	72559		14288200	225900	14288100	225900	7053158





昭和14年小嶺産税計算書

昭和三十四年  
島根県  
島根県  
島根県

島根県

(減価)

印

炭種別	産地	高炭價	低炭價	總價格	税			
					本税	揮	町村税	計
塊炭								
粉炭								
切込炭								
燐石	27.722		750	20,994.00				
無煙切	22.702		500	11,351.00				
全=粉	7.121		200	2,976.00				
粗炭								
自家用粗炭								
計	72.899		1450	35,321.00	2,115.00	2,115.00	2,115.00	7,345.00

日 15 月 3 = 26

昭和14年分釐產稅計算書

昭和三十四年  
 昭和三十四年  
 昭和三十四年  
 昭和三十四年

(古河分)

米

炭種別	炭別	産出高	告示炭	總價高	稅				計
					木稅	薪稅	町村稅	計	
塊炭									
粉炭									
切込炭									
瀧石		22,927	750	1,775,075.00					
急流切		12,654	900	4,281,600.00					
全一節		6,256	900	6,620,400.00					
粗炭									
合算粗炭									
計		41,837	2,550	12,677,075.00	210,210	268,710	210,210	466,220	

計 15 出 3 = 26. =



(第一表) 昭和十四年度歳入歳出決算概算

月別	歳入	歳出	歳入超過額	歳出超過額	繰越歳入	繰越歳出	繰越歳入超過額	繰越歳出超過額
三月	九、七、七	一、五、一	八、二、六	一、七、七	一、七、七	一、七、七	六、四、九	三、五、七
四月	九、八、四	一、六、一	八、一、三	一、八、八	一、八、八	一、八、八	六、二、五	三、七、三
五月	九、九、〇	一、七、〇	八、二、〇	一、九、七	一、九、七	一、九、七	六、〇、三	三、九、四
六月	一〇、〇、〇	一、八、〇	八、二、〇	二、〇、七	二、〇、七	二、〇、七	五、八、六	四、〇、五
七月	一〇、一、〇	一、九、〇	八、二、〇	二、一、七	二、一、七	二、一、七	五、六、九	四、一、六
八月	一〇、二、〇	二、〇、〇	八、二、〇	二、二、七	二、二、七	二、二、七	五、五、二	四、二、七
九月	一〇、三、〇	二、一、〇	八、二、〇	二、三、七	二、三、七	二、三、七	五、三、五	四、三、八
十月	一〇、四、〇	二、二、〇	八、二、〇	二、四、七	二、四、七	二、四、七	五、一、八	四、四、九
十一月	一〇、五、〇	二、三、〇	八、二、〇	二、五、七	二、五、七	二、五、七	四、九、一	四、六、〇
十二月	一〇、六、〇	二、四、〇	八、二、〇	二、六、七	二、六、七	二、六、七	四、七、四	四、七、四
計	一〇、七、七	二、七、一	八、〇、六	二、七、一	二、七、一	二、七、一	四、七、四	四、七、四

昭和十四年度歳入歳出決算概算

歳入

(第二表) 昭和十四年度歳入歳出決算概算

月別	歳入	歳出	歳入超過額	歳出超過額	繰越歳入	繰越歳出	繰越歳入超過額	繰越歳出超過額
三月	九、七、七	一、五、一	八、二、六	一、七、七	一、七、七	一、七、七	六、四、九	三、五、七
四月	九、八、四	一、六、一	八、一、三	一、八、八	一、八、八	一、八、八	六、二、五	三、七、三
五月	九、九、〇	一、七、〇	八、二、〇	一、九、七	一、九、七	一、九、七	六、〇、三	三、九、四
六月	一〇、〇、〇	一、八、〇	八、二、〇	二、〇、七	二、〇、七	二、〇、七	五、八、六	四、〇、五
七月	一〇、一、〇	一、九、〇	八、二、〇	二、一、七	二、一、七	二、一、七	五、六、九	四、一、六
八月	一〇、二、〇	二、〇、〇	八、二、〇	二、二、七	二、二、七	二、二、七	五、五、二	四、二、七
九月	一〇、三、〇	二、一、〇	八、二、〇	二、三、七	二、三、七	二、三、七	五、三、五	四、三、八
十月	一〇、四、〇	二、二、〇	八、二、〇	二、四、七	二、四、七	二、四、七	五、一、八	四、四、九
十一月	一〇、五、〇	二、三、〇	八、二、〇	二、五、七	二、五、七	二、五、七	四、九、一	四、六、〇
十二月	一〇、六、〇	二、四、〇	八、二、〇	二、六、七	二、六、七	二、六、七	四、七、四	四、七、四
計	一〇、七、七	二、七、一	八、〇、六	二、七、一	二、七、一	二、七、一	四、七、四	四、七、四

(第一表)

昭和十四年度歳入歳出決算概算

歳入

歳出

計



一節二表丁 昭和十三年年度被夫移動概況

昭和十三年年度被夫移動概況

月別	出人数 (高)	月未満人数	延工数	出人数 (高)	出工数	日数
正月	九八八四	七〇五七	一四八八九	一五〇四	六六	二六
二月	八八二〇	六八八三	一四九三七	二二九一	五九	二六
三月	八三四七	六八二五	一四九七二	二二九一	五九	二六
四月	九一七四	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
五月	八七五二	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
六月	八七五二	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
七月	八七五二	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
八月	八七五二	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
九月	八七五二	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
十月	八七五二	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
十一月	九一七四	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
十二月	九一七四	六八八五	一六〇一七	二二九一	五九	二六
計	一〇九六九	七〇五七	一四八八九	一五〇四	六六	二六

昭和十三年年度被夫移動概況

一節二表(一)

昭和十三年年度被夫移動概況

月別	出人数	移入後三月 未歸ノモノ	移入後六月 未歸ノモノ	移入後一年 未歸ノモノ	移入後一年 以上ノモノ	計
正月	五二	一〇	一〇	一〇	一〇	五二
二月	五五	一〇	一〇	一〇	一〇	五五
三月	五七	一〇	一〇	一〇	一〇	五七
四月	五九	一〇	一〇	一〇	一〇	五九
五月	六一	一〇	一〇	一〇	一〇	六一
六月	六三	一〇	一〇	一〇	一〇	六三
七月	六五	一〇	一〇	一〇	一〇	六五
八月	六七	一〇	一〇	一〇	一〇	六七
九月	六九	一〇	一〇	一〇	一〇	六九
十月	七一	一〇	一〇	一〇	一〇	七一
十一月	七三	一〇	一〇	一〇	一〇	七三
十二月	七五	一〇	一〇	一〇	一〇	七五
計	八三	一〇	一〇	一〇	一〇	八三



(第二表) 昭和十二年年度貸出農家数

高岡縣田川郡 町

農家数

月別	出農家数 (町)	月末借家数	延工数	出農家数	町農家数	日数
四月	八八七一	五九三	一、九三七	一、九七六	八	二四
五月	九三八	五八〇	二、八九九	一、九七七	七	二七
六月	九、五八	五八二	二、四一〇	一、九七五	七	二六
七月	九、五八	五八二	二、四一〇	一、九七五	七	二六
八月	八八八四	五四一	一、九三〇	一、九七〇	七	二六
九月	九九五九	五二七	一、五七九	一、八九〇	九	二六
十月	九四六五	五二五	一、四九八	一、八八五	九	二六
十一月	九四〇一	五三二	一、四九八	一、八八五	九	二六
十二月	一、五九六	六四一	一、五三二	一、八八五	七	二四
一月	九五三九	六六四	一、三八七	一、八八五	六	二四
二月	八、五二	六六八	一、三九九	一、八八五	六	二四
三月	一、七六三	六六八	一、四九八	一、八八五	六	二四
(合計)	九五、二	五八六	一、八九五	一、八九五	八一	三五

備考 月末借家数ニハ前表ヲ除ケド

(第一表)

昭和十二年年度貸付助成

解雇農家数

月別	雇入数	解雇農家数 未滿三月	解雇農家数 未滿六月	解雇農家数 未滿一年	解雇農家数 一年以上	計
四月	二七	九	一五	三	二	二九
五月	二二	八	一六	三	三	三五
六月	一六	八	一八	三	三	三四
七月	二八	一五	一八	一	三	五一
八月	二七	一六	一〇	一	三	二六
九月	四二	一六	一〇	一	三	二六
十月	九	七	七	一	三	二一
十一月	三一	七	七	一	三	二一
十二月	一四七	一三	六	五	四	二一
一月	五八	四	九	七	二	二五
二月	五五	四	九	七	二	二五
三月	三一	一	一	三	一	六
計	九〇〇	九九	一四一	一〇三	五七	四〇

古河合名会社大樽燻膏表

此表係昭和四年一月一日

島田製炭

昭和四年一月一日

別號 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉 燻煙粉

八月	二十九	一三四七	四四五五	五六一九
九月	二十八	一三三三	四四九九	五六一九
十月	二十七	一三一九	四四八三	五六一九
十一月	二十六	一三二七	四四三九	五六一九
十二月	二十五	一三二〇	四三九九	五六一九
新	廿四	一三二〇	四三九九	五六一九
廿三	一三二〇	四三九九	五六一九	
廿二	一三二〇	四三九九	五六一九	
廿一	一三二〇	四三九九	五六一九	
廿	一三二〇	四三九九	五六一九	
十九	一三二〇	四三九九	五六一九	
十八	一三二〇	四三九九	五六一九	
十七	一三二〇	四三九九	五六一九	
十六	一三二〇	四三九九	五六一九	
十五	一三二〇	四三九九	五六一九	
十四	一三二〇	四三九九	五六一九	
十三	一三二〇	四三九九	五六一九	
十二	一三二〇	四三九九	五六一九	
十一	一三二〇	四三九九	五六一九	
十	一三二〇	四三九九	五六一九	
九	一三二〇	四三九九	五六一九	
八	一三二〇	四三九九	五六一九	
七	一三二〇	四三九九	五六一九	
六	一三二〇	四三九九	五六一九	
五	一三二〇	四三九九	五六一九	
四	一三二〇	四三九九	五六一九	
三	一三二〇	四三九九	五六一九	
二	一三二〇	四三九九	五六一九	
一	一三二〇	四三九九	五六一九	

共 島 廻 炭 坑

昭和四年



昭和十五年二月二十九日

東京市目黒区大崎三丁目

大崎鎮業所



島田炭鉾甲

鉾産稅分割資料、因不併

鉾産稅分割上、必要有之支條、御手數、左記事  
項、三月五日迄、御告知相續度候也

記

島田炭、奥谷坑、榎谷坑

月別、炭種別、出炭量數

月別、在籍人員

（一月、八月、九月、滿期）  
（八月、九月、十月、七期）  
（別紙）

全 左

古河大崎鎮業所

3/3  
及路呈 済目



古河合石令札

大樽籠書子所發務請 古河

鳥廻所凡

昭和十四年 古河月台外所報告

月別	古河	石	燼	敷	在籍人更	内推子所燼石
正月	燼	石	燼	敷	三二五	三二五
二月	燼	石	燼	敷	三一七	三一七
三月	燼	石	燼	敷	三三一	三三一
四月	燼	石	燼	敷	三三一	三三一
五月	燼	石	燼	敷	三一一	三一一
六月	燼	石	燼	敷	三〇九	三〇九
七月	燼	石	燼	敷	三〇九	三〇九
八月	燼	石	燼	敷	三〇九	三〇九
合計	燼	石	燼	敷	三二四〇	三二四〇

共

鳥廻所凡

燼 炭 坑

吉河合名合札

大樽編書子ノ流器製中

常建此成

初和山年八月八日

月別

考

曜

教

在籍人数

報ノ有候燼石

八月(日)

燼石

三八一三

三〇五

二十七日

二十七日

拾月

〃

四、六、九

二八三

二七九

〃

拾月

〃

五、二、七

二七九

〃

合計

〃

二、五、九、三、七

一、四、三、五

〃

共

共同石炭  
株式會社

島 廻 炭 坑

古河入倉倉札

大峰麻葉並及勢稱中

爲週新坑

昭和四年八月廿日 出考報告

月別	無煙考	三、二、五、六	四、一、四	
茂月	無煙考	一、三、八、七	四、一、一	
考月	無煙考	三、九、〇、五	四、一、一	
	無煙考	一、二、四、四	四、一、一	
	無煙考	三、四、七、二	四、一、一	
	無煙考	一、四、八、七	四、一、一	
四月	無煙考	三、二、八	四、一、一	<b>共</b> <small>合計</small> <small>換算</small> 島廻炭坑
	無煙考	一、五、六、八	四、一、一	
五月	無煙考	三、四、六、二	三、九、九	
	無煙考	一、四、八、四	三、九、〇	
六月	無煙考	三、一、八、二	三、九、〇	
	無煙考	一、三、六、四	三、九、五	
七月	無煙考	三、三、四、六	三、九、五	
	無煙考	一、三、九、一	三、九、四	
八月	無煙考	六、六、二	三、九、四	
	無煙考	二、八、四	三、九、四	
合計	無煙考	三、七、九、三	四、一、一	
	無煙考	一、〇、二、〇、九	四、一、一	

古河合名 倉札

大樽 飯 常 杉 漆 務 雜 中

白 高 廻 杉 瓦

昭和五年 八月 始 未 始 報告

月別

杉 煙 杉 煙 杉 煙 杉 煙 杉 煙

八月

無 煙 杉 二二四九

三九四

九月

無 煙 杉 二八〇七

三八七

拾月

無 煙 杉 二〇三

二七九

拾月

無 煙 杉 一三〇七

二七九

拾月

無 煙 杉 一三一九

二七九

共 北 回 名 炭 坑 株式會社

拾月

無 煙 杉 二八六四

三七一

拾月

無 煙 杉 一三二七

三七一

拾月

無 煙 杉 二九四一

三七一

拾月

無 煙 杉 一五六〇

一八〇二

拾月

無 煙 杉 一五九三八

一八〇二

拾月

無 煙 杉 一三九七二

一八〇二

電力消耗 5-9 年  
 5-11 年  
 5.15.2.4

5-9	1620.11	163.300	
10	2177.069	172.731	S-15-3-4
11	2406.420	204.190	研究部報告
12	2928.600	250.500	
13	2444.572	188.910	
14	2720.000	249.450	

米

四川省水利廳  
 四川省水利廳  
 四川省水利廳  
 四川省水利廳

水位高表 自 1954年 起  
 至 1955年 止 (按日平均水位)

年 次	理 水 数	实 测 数	月 别
9	76.88	72.78	5月
10	71.616	75.41	5月
11	85.221	88.27	6月
12	108.168	99.58	6月
13	110.431	97.70	6月
14	125.808	11.160	6月
合计	588.104	546.36	

※

第 五 年 五 月 廿 六 日  
 香 成 教 八 報 署 人

日 月 年



昭和十五年貳月廿九日

古河本社

計算課 藤中

古河本  
倉田  
島田  
炭坑



昭和十五年二月廿九日 貯蓄状況報告

炭	貯蓄額	貯蓄率
炭	六、一、三、二。	〇、〇、五
炭	五、九、四、三。	〇、〇、四
炭	一、三、四、三、四。	〇、〇、〇
炭	一、一、五、九、一、三、四。	〇、〇、五
炭	〇、〇、〇	〇、〇、〇

共

北河本  
株主會

島田炭坑



昭和十五年一月十五日

廣田首相官邸 大正庄五五〇

大峰鐵業所

白  
回  
批  
判  
申

資源調査ニ關スル件

資源調査會及鐵道調査機關ニ於テ別紙用紙へ調査御記入ノ上二  
月五日迄ニ申付工作事務長田村氏宛御送附相成候  
度ト存ス

昭和十四年十一月八日 田村

昭和十五年一月十五日 古河

昭和十五年一月八日

鳥

山

祝

御

中

歳

時

儀

印

遷設祀地就調定ノ件

左記月別遷設祀地必要者之帳簿御記入ノ上一月十五日迄御届  
遊相成度候

記

祝	名	八月 御正月 一日	八月 御廿八日	九月 御一日	十月 御一日	十一月 御一日	十二月 御一日	計
鳥山	鳥山	一八五二	六二六八	六四八〇	三三五〇	六七一六	二六四六	一、九九九
集雲院	集雲院	一六六五	一六〇〇	二〇九	三二〇	五七五	一、九九九	一、九九九

昭和

年

月

日

古

河



昭和十一年十一月

東京市豊島区

藏内鐵業株式會社

請求書

金七拾四圓八拾錢也

但拾月分便日電力代

右請 求 生 支 也

昭和十一年十一月十日

古河合名大峰鐵業



島根県松江市



天長送金三

昭和十七年七月廿三

共月石交様式存本

島田支局長 杉本博治 敬

拝啓、貴社、御遠慮、幸甚、之矣

海島、豫少、創立、中、ノ、由、リ、御、概、算、管、理、為、念、

於、少、別、紙、ノ、通、リ、貴、社、重、親、請、有、一、之、

同、考、湖、中、之、卷、破、白、ノ、包、合、以、予、之、上、ノ、

才、申、書、只、念、其、割、割、ノ、盤、合、以、交、知、保、年、

自、一、月、五、日、是、ノ、出、家、董、計、算、之、上、ノ、元

島田支局長 杉本博治 敬



昭和 年 月 日 古 河

中、作甚少、恐縮、亦、此、并、算、一、刻、今、之、學、以、爲、

阻、不、可、即、身、上、

、這、亦、身、漸、重、中、即、一、程、之、既、一、立、吾、定、則、則、其、至、乎、

以、隔、業、上、上、以、道、限、也、

也

、并、指、身、漸、重、即、此、亦、一、圖、也

出、其、意、

、一、二、三、四、五、一、八、二、六、九、五、既

、其、二、四、而、上、下、可、既

、

、

、

、

、

、中、其、阻、難、於、回、也

明

和

年

月

日

吉

河

14-23872023

271.647 } 12.2977  
20.542 }  
27.119 }  
20.117 } x12 = 241  
249.72

昭和十一年十一月七日



田川技術管理奉告會

三輪 泰利



大峰

長 謹 啟

田川技術管理奉告會

敬啟者 統括之御利益々御慶慶之故奉告候

編者本會新立要務會及創立總會一於テ御承認ヨ仰タル旨附合左記金  
額ヲ本月二十日迄ニ御取收度此致御真意也 例

副所長

一會 五六 御出 但田川技術管理奉告會附合

所長

是而本會ハ創立日附迄々々モ不拘各御業務ノ甚大ナル御補助ノ下  
ニ今日此例會ヲ開ク事以同ニ及ビ難々所期ノ目的達成ニ努力致施  
御別當内容及收支計算書全副仕儀御一覽賜下是幸  
以上



四川技術管理會

昭和廿五年九月末現在

1. 加入委員 22 名  
 2. 加入會員 67 人  
 3. 例會

- 例會  
 第一回 昭和廿五年二月二十九日 創立準備會 9 名 (於三月十日完成)  
 第二回 昭和廿五年三月廿六日 創立總會籌備會 9 名 (於三月廿四日完成)  
 第三回 昭和廿五年七月十七日 例會 4 名 (於七月十四日完成)  
 第四回 昭和廿五年八月十七日 例會 4 名 (於八月十四日完成)

職員表

姓 名	職 務			計	備 考
	第一回	第二回	第三回		
徐 漢	常 務 會 長	/		2	編費生、調查費受 記録、支所、幹事人
	日 本 文 書 庫	/		1	
江 津 淳	文 書 科 長	/	/	2	
	運 送 課 長	/	/	2	
李 學 禮	會 務 課 長	/		1	
	會 務 課 長	/	2	2	
錫 全	出 入 課 長	/		1	
兒 孝	庶 務 課 長			1	
	庶 務 課 長		/	1	



# 收支決算書

昭和24年10月現在

收入	支出	残高	摘要
12.00			個人會費 27人分
	20.81		事務費
	6.91		通信費
	13.92		例會費
12.00	46.14	116.86	同年10月郵便費2元

## 支出金明細表

### 事務費

印刷費	2冊	6.61
印刷費	1冊	2.80
印刷費	1冊	1.00
本誌代	2冊	6.80
印刷費	1冊	4.80
印刷費	2冊	8.40
印刷費	1冊	2.00
計		46.14

### 通信費

第一回例會費	6.00	第二回
第二回例會費	6.00	第三回
	4.72	第四回
第四回例會費	6.00	第一回
計	22.72	

### 交通費

例會費	27人分	6.72
例會費	1人分	.12
例會費	46人分	13.84
例會費	1人分	.04
例會費	46人分	2.00
例會費	1人分	.17
計		26.14

### 合計

46.14

茶園ノ中

146.860

茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中

茶園ノ中

茶園ノ中

茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中

茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中

茶園ノ中

茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中  
茶園ノ中

茶園ノ中

昭和拾四年十月

島田炭礦株式會社

古河本社

計算課簿中

至八月末日截至九月間貯蓄状況報告

貯蓄	七、四七、四九	四一七、。	。	。	五
負	六八、八六八	四四三、二。	。	。	八五
業	三、九七、五三	一九六、二七。	。	。	六
從	九、七二、一五	二四六、七五。	。	。	六
貯蓄總額					
貯蓄率					

共

島田炭礦株式會社

島田炭坑

昭和 年 月 日

古河大峰編輯部

藤島信文(四半)才宛大書

大師立現出書

牛尾尾藤島伴作(伴)等七位(共)訂到藤島信文(才)上  
九月廿五日(伴)等七位(共)訂到藤島信文(才)上

昭和四年九月十九日

藤島信文(才)上

大種(才)上(伴)等七位(共)訂到藤島信文(才)上

大正十一年九月八日

東京市神田区

大正十一年九月八日

大正十一年九月八日

大正十一年九月八日

山崎 長



島道文研

保安二關六二調査表

昭和十四年九月滿

(1) 出 発	14年度	14年度	15年度	16年度	17年度
	4月 - 8月	9月 - 12月31日	4月 - 10月31日		
(2) 排炭量 (S机別)	又炭坑 2389噸	・ 4591噸	・ 4591噸	・ 4591噸	・ 4591噸
3方炭分	美谷坑 4066噸	・ 4066噸	・ 4066噸	・ 4066噸	・ 4066噸
(3) 總排炭量及測定量 (S机別)	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
(4) 測定量増加の割合ハハ 調査 (S机別)	/	又炭坑 7000噸 高用機新設	/	/	/
(5) 岩粉使用量 (噸)					
(6) 撒水用鐵管延長 (米)					
(7) 撒水用木又延長 (米)					
(8) 局部扇風機	自數計	113	23	2	2
	馬力計	16.5HP	3.0HP	2HP	3HP
(9) 風管子(木) 延長(米)					
(10) 電氣安全燈 (個)	260	300	200	200	200
(11) 揮發油安全燈 (個)					
(12) カニ子 (個)	200	150	200	/	/
(13) カバト (灯火用) (高)	2340個	5045個	6739個	/	/
(14) 瓦斯檢定器 (個)	1	1	1	1	1
(15) 其他設備上必要機械器具					

記載注意

- (1) 十四年度即八月ノ凡テ現在量ヲ記入ナク
- (2) 十四年九月迄排炭量ノ見込額數(1) (2) ハ記入ナク
- (3) 撒水用鐵管延長ハ他ニ既用ノモノヲ含ム





昭和 年 月 日

古河大峰編輯所

電話二七〇三、二七〇四

開會表

討論會

一 一 改訂 舊之 數也 城 區 全 得 之 才 而 別 年 地 別 考 証 之 記

載 八 一

二 現 會 變 名 之 故 又 特 不 會 變 名 之 故 ( 現 在 地 區 均 於 新 也  
城 區 現 會 變 名 之 故 又 特 不 會 變 名 之 故 ) 之 行 八 又 事 一  
可 收 及 定 常 時 解 事 之 行 八 又 事 一 日 考 証 會 關 記 載 八 一  
三 如 初 十 五 年 之 考 証 會 關 記 載 八 一 乃 若 考 証 會 之 行 八  
任 之 考 証 會 關 記 載 八 一



15/12/54 10,950 磅  
 14/12 12,700 磅  
 14/12 13,750 磅  
 你或人  
 曹雲

昭和十四年度乃至昭和十五年度出炭預定數量調査表

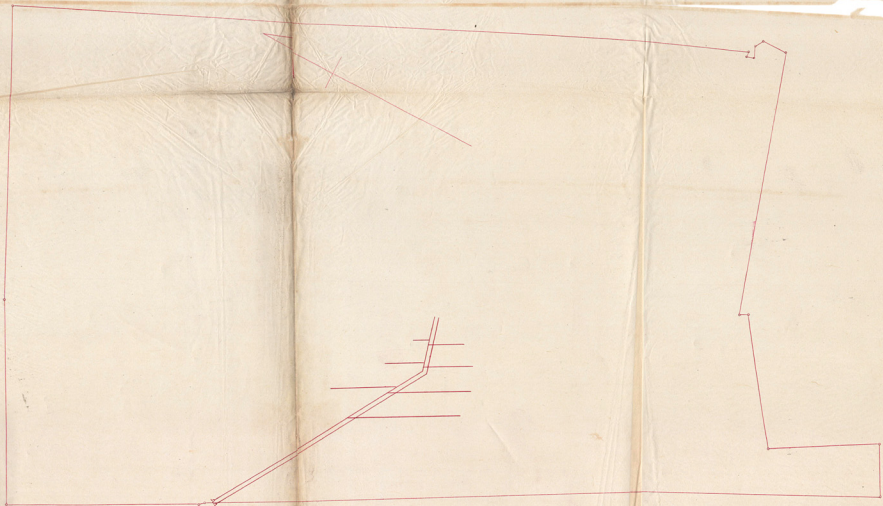
炭礦名 \_\_\_\_\_ 所在地 \_\_\_\_\_ 煤炭埋藏名 \_\_\_\_\_ 住所 \_\_\_\_\_

(單位 噸)

炭別又ハ區域別	昭和十四年度					昭和十五年度					昭和十四年度	昭和十五年度	備考		
	四月-六月	七月-九月	十月-十二月	一月-三月	計	四月-六月	七月-九月	十月-十二月	一月-三月	計					
<del>...</del>	<del>1166</del>	<del>11100</del>	<del>11600</del>	<del>11900</del>	<del>12016</del>	<del>11600</del>	<del>11900</del>	<del>11900</del>	<del>11900</del>	<del>11900</del>					
<del>...</del>	<del>12200</del>	<del>12500</del>	<del>12900</del>	<del>11800</del>	<del>11600</del>	<del>11700</del>	<del>11800</del>	<del>11800</del>	<del>11800</del>	<del>11800</del>					
<del>...</del>						11000	11000	11000	11000	11000					
<del>...</del>						11000	11000	11000	11000	11000					
大炭坑	1666	11100	11600	14900	11000	11000	11000	11000	11000	11000					
炭谷坑	1200	1200	1200	11800	11000	11000	11000	11000	11000	11000					
合計	2866	27600	29200	26800	11000	11000	11000	11000	11000	11000					
合計	2866	27600	29200	26800	11000	11000	11000	11000	11000	11000					

此表之資料係由昭和十四年度及十五年度出炭預定數量調査表  
 及炭礦名簿等資料作成之  
 昭和十四年度及十五年度出炭預定數量調査表  
 及炭礦名簿等資料作成之  
 昭和十四年度及十五年度出炭預定數量調査表  
 及炭礦名簿等資料作成之





昭和拾四年八月日

精製魚肥炭礦

古河鑛業所

庶務課御中  
本年度貯蓄目標額

放棄負 職負

自昭和十三年四月一日	額金	支拂總額	三九七五円	三九七五円
自昭和十三年四月一日	額金	支拂總額	三九七五円	一四三四円
自昭和十三年四月一日	額金	支拂總額	六九八四円	六九五四円
自昭和十三年四月一日	額金	支拂總額	一四八六円	一四八六円
自昭和十三年四月一日	額金	支拂總額	二〇六六円	一〇四三円
自昭和十三年四月一日	額金	支拂總額	八三・五六円	七八八八円
共		島廻炭坑		
自昭和十三年四月一日	貯蓄總額	二八四四円	六九九円	
自昭和十三年四月一日	貯蓄總額	四三六六円	五〇六円	
自昭和十三年四月一日	貯蓄總額	三七二二円	四六〇円	
自昭和十三年四月一日	貯蓄總額	五五八八円	六九〇円	
自昭和十三年四月一日	貯蓄總額	五六〇〇円	七〇〇円	
自昭和十三年四月一日	貯蓄總額	三・四〇円	三・三五円	

No. \_\_\_\_\_

昭和十四年六月三十日

島 田 就 中

續業部副本作製上必要有之候條  
昭和十三年一月一六月迄ノ就内被及調出被ノ合計ヲ月別ニ電數  
ニ換算ノ上七月五日迄ニ續業部へ御送越相成候條

藤島田川原春田町  
藤内領事官會社  
庶務課

藤島田川原春田町  
藤内領事官會社  
電話 七二〇  
庶務課



昭和拾四年七月六日

藏内木社庶務課 齋中

齋中

島廻炭坑



御通知ニ依り昭和十四年自一月至六月坑内硯及撰出硯各  
月別左記ノ通り御回答申上儀

記

月別	坑内硯	撰出硯	合計	備考
一月	一六・七 <sub>手</sub>	三七・八 <sub>手</sub>	五三・九 <sub>手</sub>	
二月	一五・二 <sub>手</sub>	三一・三 <sub>手</sub>	四四・五 <sub>手</sub>	
三月	一七・一 <sub>手</sub>	三九・四 <sub>手</sub>	五六・六 <sub>手</sub>	
四月	一四・一 <sub>手</sub>	三五・九 <sub>手</sub>	五〇・一 <sub>手</sub>	
五月	一三・六 <sub>手</sub>	三七・七 <sub>手</sub>	四九・七 <sub>手</sub>	
六月	七・九 <sub>手</sub>	三五・三 <sub>手</sub>	四三・三 <sub>手</sub>	
合計	八二・六 <sub>手</sub>	二一七・八 <sub>手</sub>	二九八・四 <sub>手</sub>	
<b>共</b>			共四石五	島廻炭坑
			株式会社	

昭和拾四年五月拾四日

福岡鑛山監督局御中

福岡鑛山監督局御中

福岡(四年庚三一九八號)以下御照會ノ時蕃狀況調  
左ノ通リ御回答申上儀也

記

一 時蕃總額調

總額	三六四七	二八四七	一五〇〇
愛前野金	三六四七	二八四七	一五〇〇
時蕃總額	三六四七	二八四七	一五〇〇

二 在籍鑛夫数及時蕃鑛夫数調

共 島 廻 炭 坑

昭和十四年三月末日ニ於ケル在籍鑛夫数	七三七人	三一九人
三自昭和十三年四月一日至昭和十四年三月三十一日ノ年間ニ於ケル 時蕃ノ時蕃總額	六三九五	(三七人)

四 本年度(自昭和十四年四月一日至昭和十五年三月三十一日)ニ  
於ケル時蕃見込高(職負及鑛夫別)

職負	二四七九
鑛夫	二一五三一



藏金券第二號

森内藤栄株式会社

昭和十四年四月七日

昭和十四年四月七日

島根県銀行 中

福岡縣田貝郡藤田町大字庄丸裏〇  
藏内藤栄株式会社



昭和十三年度儲蓄税及同附加税別紙ノ通り相成様條御送附相願度  
候

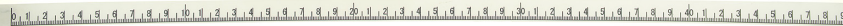
25 970  
 6 1200  
 14 3520  
 4 352  
 7 1100  
 10500 38 3570  
 1200 5 250

249 1200  
 230 800  
 7820 10500

民國二十一年  
 終年  
 總帳簿



中華民國二十一年  
 總帳簿





烏地錄

昭和11年全錄及稅計草書

蒙內秘書林會社



品別	原出高	坪数	税價付	計			
				元	角	分	厘
地							
地							
地							
地	57.261	210	429.45 <sup>2</sup>	2596.7 <sup>2</sup>			
地	57.267	210	235.403	2,112.42			
地	16.410	900	147.690	1,016.10			
地							
計	110.938		912.550 <sup>12</sup>	6,475.4 <sup>28</sup>	912.55 <sup>9</sup>	1,475.3 <sup>30</sup>	11,063.4 <sup>12</sup>

昭和11年 4月 2日 初稿

福岡縣田川郡川崎村  
 株式会社島  
 炭坑  
 昭和十四年八月

廣西本社庶務課席中

共計  
 炭坑  
 島  
 炭坑

應召者調(昭和十四年四月壹日現在)

職復部

上級

該當者十二

下級

採礦二名 其他一名

合計三名

線働者部

職別

予備

後備

補充

現狀

合計

採炭夫

採炭夫

採炭夫

一

七

一三

二〇

一

一

一

一

昭和十四年四月廿四日

共

昭和十四年一月十九日

廠内銀業株式會社

計 算



島 岡 炭 坑 御 中

拜啓愈御多祥之段奉賀候

慶者御坊園保昭和十三年度迄、乎、準備月割禮金へ別紙精算  
書ノ通りト相成候就テハ御引合ノ上相違無之候ヘイ午御面倒  
同封承認書へ御捺印ノ上折返シ御送附被下度此段拜賀宣候  
尚本年度月割額へ六立〇圓乃至七〇〇圓程度ニテハ如何カト  
存ゼラレ候處御決定ノ上御通知置申上候

次ニ昭和十三年度御枕退、乎、準備金積立額へ

廠内銀業株式會社

全年末ニ於ケル人員

六五七名

右賃金合計

二六〇、九五四圓

退、乎、積立金

八、六一一圓四八

ニ有之昭和十四年一月十一日積立預入仕額

先ハ當用迄知所御座候

敬 首

303

26,149 | 26,914  
283,299 | 101  
26,086



買方御控

通、手、準備月割積立金精算戻承認書

一、金費千貳百七拾五圓六拾錢也

但、昭和十四年一月十一日現在通、手準備月割積立金精算戻

貴方へ預ヶ金

右承認候也

昭和十四年 〇 月 〇 日

福岡県三井郡川崎町  
林田正三  
株式會社 高田炭鑛



藏内鑛業株式會社 御 中

但、昭和十四年度月割積金額六百五拾圓也

右

藏内鑛業株式會社



昭和十三年十一月七日

本 社

開 中

監督局文所設置ニ付

去ル十月五日ヨリ福岡県山笠督局文所設置セラレ左記所轄事務開始ノ次第ニ従順備此設置趣儀也

記

一、文所名稱

福岡県山笠督局法華寺文所

一、所在地

福岡県田川郡法華寺町大字宗良(電話三七七)

一、管轄區域

又り宗良法華寺

畿内鑛業株式会社

田川郡、高橋郡 両郡

一、文所收数事務

一、鑛業監督

二、災害調査

三、鑛業奨励ノ事業

一、文所ノ報告ス可キ事項

(一) 鑛業監督規則第七十三條ノ災害事故報告(急報及詳報)

但災害事故ニヨリ同時ニ死者又ハ重傷者合計五名以上ヲ生ジタル場合又ハ死傷者ヲ生ゼザル時ト雖モ作業ノ全部又ハ一部ヲ休止シタル場合ハ鑛山監督局及文所ノ両方ヘ急報シ其ノ詳報ハ文所ノミヘ提出スルコト

同其ノ進必要ト認メタル事項

□文所ノ承認ヲ要スル事項

拍賣圖ニ於テ拍賣地乘取（新規變更其ノ態）ヲ提出セシ  
トスル場合ニハ文所ノ承認ヲ受ケタル後續山監督局へ  
提出スルコト

廠内鑛業株式會社

山形十三日返

廿五日 十日

桶石 七日 十日

二日 三日

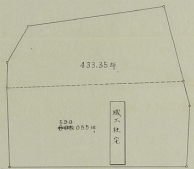
以上長尾 既中 長尾 三日 四日 あり  
船乗者 提出 スル 下 並 認 入

昭和十三年八月二日

信濃市川原川町村  
徳川社  
馬 廻 皮 坑  
電話 川原八番







合計坪数 533.85 坪

藏木的井地 (德記宅地)

(昭和七年七月六日)

福岡縣田川郡川崎村  
此月石炭  
株式会社  
島 越 炭 坑  
昭和四年八月

昭和四年六月 抽戻金

取物料 二九六・三〇

保険料 一五四・六八九

普附金 五三・四五〇

株主持巻 八三・五八四

合計 九一〇・一三〇

昭和四年六月 抽戻金 庶務部小川氏へ代託。同ノズ?

昭和四年六月 抽戻金

共

出  
金  
年  
月  
日

編練一三年第七三九號

昭和十三年二月二十三日

福岡縣山崎支局長 様

試



福岡縣山崎支局



備 考  
領 票 代 理 人 派

軍用飛行機一機乗取試練一機納品願ニ付  
今般機乗取試練ノ一機目トシテ別紙添付ニ添テ軍用飛行機一機  
既而國庫一ツ取納スルコトト決意シテ貴支局ニ添テ加納力願  
候様員ニ對シテモ本府領ノ取可領付方特ニ添取計ヒ相成度  
貴支局員ニ於ケル出金ハ引付計額取納ノ方妥ニヤリ之ヲ  
算出シ其ノ決定額ヲ乘ル三月二日迄ニ添取相成度

株式勸出費 110,000 円  
 長年一州子人欠 664人 6,000 円  
 合計 116,000 円  
 1927年 1,320,000 円  
 1928年 1,320,000 円  
 合計 2,640,000 円

軍用飛行機納付書

一、納付先、金納庫庫及金納

陸海軍ニ納付納付各一機宛、其ニ要スル經費左ノ如シ

約一〇〇、〇〇〇円 陸軍機納機又ハ偵察機一臺

約一〇〇、〇〇〇円 海軍艦上攻撃機一臺

計約二〇〇、〇〇〇円

二、納付者

福岡山崎管区内ニ於テ石炭新業ニ従事スル事業主及従業員（職

員モ含ム）全部

三、納付額

納付機二臺ノ製作費ニ充當スル爲各長調ハ左記方法ニヨリ算出シタ

ル金額ヲ算出スルモノトス

(一)重要炭山（田炭高年五萬圓以上ノモノ）ニ在リテハ

（山）従業員數ヲ標準トシ一人當五拾圓以上トシテ得タル金額ノ合計額トス

（山）田炭高年五萬圓以上トシテ得タル金額ノ合計額トス

(二)其ノ他ノ炭山（田炭高年五萬圓未満ノモノ）ニ在リテハ

（山）従業員數ヲ標準トシ一人當五拾圓以上トシテ得タル金額ノ合計額トス

（山）田炭高年五萬圓未満トシテ得タル金額ノ合計額トス

右ニ依リ得タル一長調當リ算出金額ヲ事業主ト従業員トカ如何ニ分  
 割スルヤハ當該炭礦ノ自由タルコト  
 以上ノ方法ニヨリ各長調ヨリ算出スル金額ノ決定機關ヲ舉ゲレハ左  
 ノ如シ

(一)従業員ヲ標準トシテ得タル金額 八一、〇〇〇圓

(山)重要炭山 八〇（従業員數約一五〇、〇〇〇人）

一人當五拾圓以上 此ノ金額 七五、〇〇〇圓

(山)其ノ他ノ炭山 一六〇（従業員數約二〇、〇〇〇人）

一人當五拾圓以上 此ノ金額 六、〇〇〇圓

(二)田炭高年五萬圓以上トシテ得タル金額 一一〇、〇〇〇圓

管内田炭高年三萬圓（昭和十二年）ナルヲ以テ田炭一區

ニ付田炭トシ此ノ金額一〇〇、〇〇〇圓トス

二〇一、〇〇〇圓

計

田炭一區

二ヶ月以内ニ各長調ニ於テ取組メ國民側山監警局宛送付スルコト規

シ分納ヲ務メス



軍用飛行機數納許發總章書

客年十二月五日ヲ期シ同期セラレタル諸國軍用運動力業者各位ノ  
熱烈且確實ナル努力ニ依リ着々其ノ完備ヲ成メツアアルハ海ニ于  
テノ欣快トスル所ナリ。

惟フニ暴支虜敵ノ猖獗ヲ強ムルコト益ニ非淺尤深アル無敵皇軍ハ  
毎々タル戰果ヲ獲得シ、陸ニ海ニ將又空ニ世界戰史上特ニ見ル大  
捷ヲ博シツツアルモ確然ナル支那國民政府ハ依然長期抵抗ヲ蒙  
シテ邁ラス加之亭壁ヲ崩ル列國ノ意向ハ實ニ微妙ナルモノアリ、  
國際情勢ノ變遷ニ伴フ列強ノ軍備擴充ハ我國國防施設ノ完備ヲ要  
請スルコト愈々切ナルモノアリ。

茲ニ於チ我等産業人タル者思フ内外ノ情勢ニ就シ曰フ時務ノ重  
キニ任シ物モ私アル無ク協心戮力以テ國策報國ノ益ヲ效サザルヘ  
カラヌ。

今聞當局ニ於テ管内全石炭山ニ呼ヒカケ軍用飛行機ヲ獻納セント  
スル所以ノモノハ新ル時勢ニ對照シ更ニ國策報國精神ヲ昂揚スル  
ト共ニ非常時日本ノ石炭産業戰線ヲ死守スル我等産業人ノ愛國の  
熱情ノ一掃ヲ表徴セントスルニ在リ。

茲々ハ我等輩ツテ本計策ノ進旨ノ存スル所ヲ明瞭セラレ之方實現  
ニ對シ空想的ノ文致ヲ吝マレサラムコトナリ。

福徳川町  
福徳川町  
島 廻 良 坑  
電話 月 八

福徳一三年第七三九號

昭和十二年二月二十三日

福徳鑛山監督局長 堀 義 臣

鑛業担当者

殿

鑛業代理人

共

軍用飛行機「鑛業鼓動號」取納スル件

今般鑛業振興協会の一委員トシテ別紙趣意書ニ其由キ

軍用飛行機「鑛業鼓動號」取納スルコトト決定被探査官ノ節

參加御協力相煩度高從業員ニ對シテモ本計畫並ノ趣旨徹底

特ニ御取計ヒ相成 願 進 而中良表被ニ於ケル 破出全額

ハ別紙計畫書記載ノ旨法ニ依リテ算出シ其ノ豫定額ヲ奉ル

二月二日迄二部回報相成度

福徳川町



12部中 11,000円 104 = 440,000  
 13部中 664人 500 = 332,000  
 2870

軍用飛行機献納計算書

一 献納先

献納先数及金額  
 陸海軍 陸軍 海軍 航空 航空 航空  
 約 10,000 圓 陸軍 航空 航空 航空  
 約 10,000 圓 海軍 航空 航空 航空  
 計約 20,000 圓

二 献納者

福岡縣山田市高野町 菅野 於 石炭 献納者 献納者 献納者 及 献納者  
 (献納者) 金額

三 献納金額

献納機 二臺 献納者 献納者 献納者 献納者 献納者 献納者  
 算出 金額 金額 金額 金額 金額 金額

共 島 廻 炭 坑

(一) 菅野 炭山 (出炭高 五萬 円 以上) 金額

(1) 菅野 炭山 出炭高 五萬 円 以上 金額  
 (2) 出炭高 五萬 円 以下 金額

(二) 其他 炭山 (出炭高 五萬 円 以下) 金額

(1) 菅野 炭山 出炭高 五萬 円 以下 金額  
 (2) 出炭高 五萬 円 以下 金額

右 炭山 出炭高 五萬 円 以下 金額 及 菅野 炭山 出炭高 五萬 円 以下 金額

以上 各 炭山 出炭高 五萬 円 以下 金額 及 菅野 炭山 出炭高 五萬 円 以下 金額

(一) 菅野 炭山 (出炭高 五萬 円 以上) 金額 150,000 圓



一人半五股字以上 此金額 七五,〇〇〇圓

(一) 其他 泰山 一六〇 (投票總數約 二〇,〇〇〇人)

一人半五股字以上 此金額 六〇,〇〇〇圓

(二) 出資第幾千種字以上得九股數 一三〇,〇〇〇圓

管出七股第幾千種字以上得九股數 (總額三萬中) 以上字以上出資一五〇圓

出資以上此金額一三〇,〇〇〇圓ト又

計 二,一〇〇,〇〇圓

四、議出期間

三月以內。各表該。於〇取經。福岡鐵山監督局。元正付。九〇ト  
位。今。細。切。ス

共

福岡監督局

島 廻 炭 坑



軍用飛行機獻紙計畫趣意書

客年十月五日ヲ期シ開始セシメタル銘業報國運動ノ業各  
各位、熱烈且眞摯ナル努力ニ依リ著々其、實績ヲ收  
ツ、アルハ、洵ニ予、欣快トスル所ナリ。

惟、フニ果支膏徴、聖戰ヲ進ムルコト、茲ニ年歲光輝アル無敵  
皇軍ハ、赫々タル戰果ヲ獲得シ陸ニ海ニ揚又空ニ世亂戰史  
上稀ニ見ル大捷ヲ博シ、アルモ、頑迷ナル支那國民政府ハ、  
依然、長期抵抗ヲ蒙結シテ、遯ラス加ヘ事変ヲ廻ル列國、  
動向ハ、實ニ微妙ナルモ、ナリ、國際情勢ノ緊迫ニ伴フ列強ノ  
軍備補充ハ、我國ノ防施設ノ完壁ヲ要請スルコト愈々如ヤ  
ルモ、ナリ、茲ニ於テカ、我等産業業人タル者、凡ソ内外、情勢ヲ二  
致シ、自ら勤務ノ重キニ任シ荷モ、私アル無ク、協心戮力以テ銘業報

共

機業報國

島 畑 炭 坑

國、誠ヲ效ササルハカラス。

今回當局ニ於テ管内全石炭山ニヨリ、軍用飛行機ヲ獻紙  
セシトスル所以、モ、ハ、斯ル時難ニ對應シ、更ニ銘業報國精神ヲ  
昂揚スルト共ニ非常時日本ノ名譽銘業戰線ヲ死守スル  
我等産業業人ノ愛國的熱情ノ一端ヲ表徴セシムルニ在リ。  
皇ノ平安香擧メテ本計畫重々趣旨ヲ存スル所ヲ明察セシメ、之ヲ  
實現ニ對シ、全幅的、支援ヲ各マレナラシムコトヲ。

昭和十一年

昭和十一年四月三十日  
東京 丸の内區 丸の内  
丸の内株式會社

石決

島田共發、依於〓〓〓

發業勿圖要匪齊此罪

一、代表者 印能洋行 子通 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

一、代表者 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓





委任状

御著儀

ヲ以テ代理人ト定メ左ノ權限ノ事ヲ委任ス

一、 廠内領業株式会社ガ三井物産株式会社ヨリ領業資金トシテ金圓

拾五萬圓也ヲ借用ニ付キ之レガ債務ノ担保トシテ田川通藏所

滿田出張所第貳號ノ領業財團ニ根拠當權設定ノ登記申請ニ係ル

一切ノ行爲

右代理委任狀依テ如件

昭和拾貳年 月 日

若松市本町參丁目貳百六拾九番地ノ堂

共同石炭株式会社

高知市廿代町貳拾壹番地

取締役 人 交 太 藏





委任狀

自公正證書作成後此ニ付

以テ代理人トシ左ノ権限ヲ授與ス

一、共同石炭株式會社ハ廠内礦業株式會社ガ三井物産株式會社ヨリ礦業資金トシテ金四拾五萬圓也ヲ順次借受タルニ付之レガ債務ノ担保トシテ左記礦業計画ニ第參順位ノ根抵當權ヲ設定スルコト

第貳號表示

一、礦區ノ位置 福岡縣田川郡大任村同郡川崎村

一、礦物ノ名稱 石炭

一、礦區ノ面積 五拾六萬參千七百四拾八坪

一、礦業權ノ登錄番號 福岡縣探州權登錄第參六號

一、礦區ノ位置 福岡縣田川郡藤田町同郡大任村同郡川崎村

一、礦物ノ名稱 石炭

一、礦區ノ面積 五拾六萬四千貳百八拾參坪

一、礦業權ノ登錄番號 福岡縣探州權登錄第七五九號

一、礦業事務所 福岡縣田川郡藤田町大字庄九百五拾番地

福岡縣若松市本町參丁目貳百六拾九番地ノ室

右代理委任ノ意思ヲ表示ス

昭和 年 月 日

若松市本町參丁目貳百六拾九番地ノ室

共同石炭株式會社

高知市廿代町貳拾壹番地

取締役 入 交 太 藏





委任状

簡者候

ヲ以テ代理人ト定メ左ノ権限ノ事ヲ委任ス

- 一、廠内領業株式会社ガ三井物産株式会社ヨリ領業資金トシテ金四拾五萬圓也ヲ借用ニ付キ之レガ償務ノ担保トシテ田川匯豐列所 津田出張所第貳號ノ領業財團ニ根拠當權設定ノ登記申請ニ係ル一切ノ行爲

右代理委任状依テ如件

昭和拾貳年 月 日

新松市本町參丁目貳百六拾九番地ノ堂

共同石灰株式会社

高知市廿代町貳拾壹番地

取締役 入 交 太 殿



表

昭和十一年度鑛業趨勢調査 控

(調査場所へ返す)

昭和十一年度鑛業趨勢調査  
調査票  
昭和十一年度鑛業趨勢調査  
調査票





切端道摆机一览表

使用地区	制造单位	规格	重量	牵引力 或功率 (Horse Power)	播种数	使用数	使用时间 总小时	田间试验 播种数
又克坡	日本农作所	2A-2	H.S. 50	电动机 7.5 HP	2	2	2000 小时	2

自新核定卷一览表

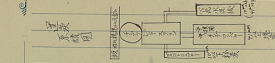
使用地区	制造单位	规格	播种数	使用台数
奥谷坡	北辰建设委员会	北辰 自新核定卷	1	1

摸 灰 場

报告 场 地 摸 灰 場 記 可 各 日 日  
 一 項 摸 灰 場 大 計 五 九 月 七 日 行

摸 灰 場 一 項 摸 灰 場  
 摸 灰 場 上 場 100m 中 場 100m 下 場 100m 上 場 200m  
 摸 灰 場 上 場 100m 中 場 100m 下 場 100m 上 場 200m

摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場  
 摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場  
 摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場



摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場 摸 灰 場



中華民國二十八年  
 島 嶼 設 計  
 第 八 號

排水設備

池和+未定+於+新設

型式	100 <sup>mm</sup> 2台	設置地點	便所內	新設+小池
型式	200 <sup>mm</sup> 2台	設置地點	新排水用	埋設

排水設備 池和+与+已存在

型式	100 <sup>mm</sup> 1台	100 <sup>mm</sup> 1台	100 <sup>mm</sup> 1台	計	5台	新設+池
型式	100 <sup>mm</sup> 1台	100 <sup>mm</sup> 1台	200 <sup>mm</sup> 2台	2台	2台	埋設
		200 <sup>mm</sup> 2台			5台	
	1				1台	
	6				6台	與池
計					14台	

共

100  
200  
300  
400  
500  
600  
700  
800  
900  
1000

日 本 計 劃 局



通氣設備

單式	2000cm <sup>2</sup> 220cm <sup>2</sup>	5000cm <sup>2</sup> 2000cm <sup>2</sup>	計	25000cm <sup>2</sup>
加式		6400/日	1日	又魚坑
10000		2700/日	1日	奧谷坑

電力購入

表

購入電		供給電	製冰	
600 K.W.	25000 K.W.H.		製冰 300(200)	製冰設備
600	25000	光電	220年	14000



昭和十三年一月廿一日

調 査 報 告

第 一

第 一

銜題炭坑名録

昭和十二年炭中ニ於ケル炭業調査報告書

福岡県山笠曾田ヨリノ地ニ依リ富田ノ詳細調査ノ上一月廿五日迄ニ報告相成度調査  
調査也

一、探 査

昭和十二年中ニ於テ採掘ニ付十二月初ヨリ繼續セルモノヲ言ム。主要探掘調査地ニ  
其方法、目的並ニ結果ニ付十二年十二月迄ノ状況ヲ詳細ニ記載スルコト  
右探掘ノ結果富田ノ結果ニ影響スベシト認メラル。如キ重要ナルモノアレバ新

藏内鑛業株式會社

ニ発見シタル鑛床、又ハ富田村ノ位置、大サ、延長、品位等ニ付テ詳記スル事

二、採 掘

昭和十二年中ニ於テ採掘方法ヲ改善シ又ハ人力ノ機械化ヲ計リ相當ノ成績ヲ得  
テタルモノアレバ其ノ詳細(改善前後ノ成績ヲ數字ノニ比較スルコト)

三、産 量

昭和十二年末現在ニ於ケル産量場ノ一日平均取量並ニ積算ノ産額及取量  
(年本規程設置ニテ最近期間ニ付テシタル一ヶ月ノ平均)

昭和十二年中ニ産量場ノ變更又ハ新設ヲナシタルモノハ其目的、及其詳細事情  
更又ハ調査前後ノ成績ヲ數字ノニ比較スルコト)

昭和十二年中新ニ産量場ヲ設置シタルモノハ其系統圖、一日ノ取量能力及主要  
機械又ハ設置ノ様式、施設、能力(毎時)動力ノ種類、所要キロワット數、及  
完成年月日

四昭和十二年米ニ於ケル標準ノ順序方法ヲ系統圖ヲ編ヘ或ル可ク詳細説明スル事  
五、表 係

昭和十二年米採任ニ於ケル標準圖ノ一日平均收量調査ニ要スル種別及数量(年米現在標準ニテ最近標準ニ作案シタル一ヶ月ノ平均)

昭和十二年中ニ要スル標準ノ歴史又ハ調査ヲナシタルモノ(其ノ目的及其詳細)

昭和十二年中新ニ要スル標準ヲ設置シタルモノ(其ノ系統圖、一日ノ收量能力及主要機又ハ要機ノ型式、電氣設備力(電時)、動力ノ種類、所安キロワット數、及完成年月日)

昭和十二年米ニ於ケル標準ノ順序方法ヲ系統圖ヲ編ヘ或ル可ク詳細説明スル事  
五、事 業 演 説

昭和十二年中ニ於テ新坑開鑿、坑内新築城ヘノ設備、選礦機、製鐵機、發電所ノ新増設等諸山ノ將來ニ影響スベシト認メラル、ガ如キ重要事項アレバ其ノ詳

### 廠内鑛業株式會社

六、礦山同共設備

昭和十二年中ニ於テ鑛山同共設備ヲ改良、演進又ハ新設セルモノアレバ其ノ詳細(坑設備、通風機他ニ概テハ其ノ附屬入サ、若クハ動力、新増設ノ別、設置場所、竣工時期等詳細ニ記載ノコト)

七、事業ノ細少

昭和十二年中ニ於テ事業ヲ細少シタルモノアレバ其ノ理由、(新増設床ノ詳細設備ノ進歩、採掘終了、少産ノ出水等)及其詳細

八、採 炭 機 械

別紙ニ大々該重要機具人ノコト





